

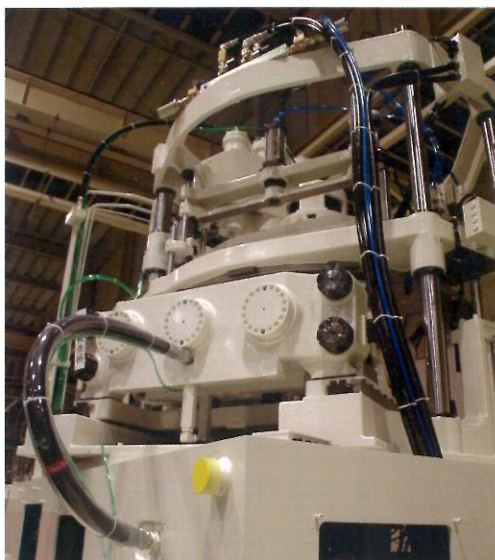
THE こだわり

「THEこだわり」のシリーズは、弊社のスタッフをはじめとして、成形機開発・製作に関係している協力会社、ユーザーの皆様の「こだわり」をご紹介します。



農業用噴霧ノズル

AOKIの成形機にもいたるところに丸屋製作所のホースが使用されている



— 提供するものは機械を結ぶ大動脈 —

「ゴムホースというのは機械と機械をつなぐ血管のようなものだと考えます。パーツの性能がどんなによっても血管が良くなければ性能は100%発揮できませんから、責任は重いですよ。」

私たちの仕事は、簡単に言えばゴムホースを希望の長さにカットし、口金具を圧着させること。これに加締めというんですが、締め込む強さや時間、使う口金具などはすべてプリチストンのマニュアルにひとつひとつ従っています。プリチストンという国内トップブランドの材料と技術があり、その品質については、私たちも自信を持って提供している。だからこそ、そのマニュアルを遵守し、同品質のものを提供していかないとはいけません。もちろん、ゴムの劣化を防ぐために常に新しい材料を仕入れたり、管理の仕方にも気を付けたり、という部分は私たち自身で考えるところですが、

— いっその飛躍は相互理解から —

「青研会の研修会には何度も参加させていただいています。そこでも強く感じるのはコミュニケーションの大切さ。実をいうと私自身にとっても苦手な分野だったのですが、小規模な会社でもしっかりコミュニケーションを取ることの大切さを、研修会を経て実感しています。たとえばお客様の依頼された内容は、工場のスタッフにしっかり伝える。工程内で起きた問題も営業や事務のスタッフにきちんと伝える

「時間＝コスト」ということは青研会でもよく言われることですが、短納期でできるというのは我が社の強みです。隣接地にあるので、どんな案件でもフレキシブルに対応できますし、時間的な面ではかなりメリットを出せているのではないのでしょうか。

品質を維持していく、納期をこなしていく、という点に加え、これからはさらにホースのプロとしてのプラスアルファを出していきたいですね。たとえば、ゴムホースというのは比較的フレキシブルに動かせる素材ではあるんですが、実際に機械を見せていただくと、結構無



株式会社丸屋製作所
長野県埴科郡坂城町南条2290
0268-82-2306
<http://www.maruya-mfg.com>

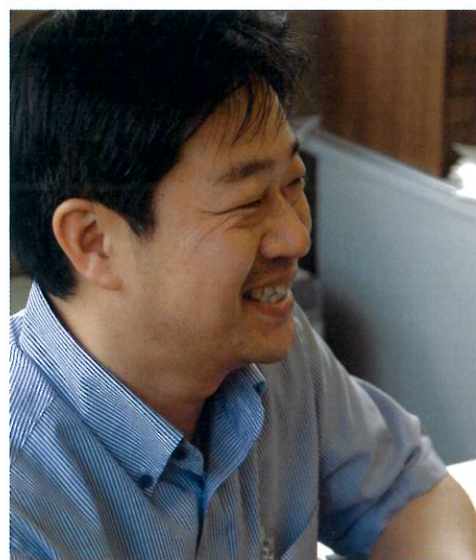
THE こだわり

THE こだわり

提供するものは機械を結ぶ「大動脈」 トップブランドの品質を即時対応で届けたい

青木 光郎氏
株式会社丸屋製作所
専務取締役

常に純正品の品質保持とできる限り短納期での対応を心がけています、と語る青木専務



— 即納に応じるための方向転換 —

丸屋製作所では現在、農業用機械の卸販売と工業用高圧ゴムホースの加工・組立を2本の柱として、事業を展開しています。そのスタートは昭和31年、農業用の噴霧ノズルを販売する「丸屋商会」でした。重量のある真鍮製のノズルをより軽く、使いやすくなるため、樹脂製のノズルを「売ってみよう」と、前社長の青木益夫氏が全国の農協に働きかけたのがきっかけだったそうです。この樹脂製ノズルを試作

したのが、実は日精樹脂工業時代の青木固会長。メーカーと商社というこのスタイルが、現在につながる密な関係の始まりでした。

工業用のゴムホースを扱うようになったのは昭和40年代に入ってからです。農業用資材の「環」としてプリチストンの消毒用ホースを扱っていたことから、同社の油圧ゴムホースの納入を始め、経営多角化の一步を踏み出します。

「当時はゴムホースについても商社的なスタイルだったんですよ。メーカーから仕入れて販売していました。でも工業用のホースは機械を組み立てる最終工程に当たることが多く、即納を求められるんです。そこで、徐々に自社で加工・組立ができるように設備を入れ、納入先の要望に応えられるように転換していったんです。」

すぐに必要となる時に、メーカーからの仕入れを3日も4日も待つことはできませんよね。今、うちには大小4基の加締めマシンがあります。純正品と同じ高品質のものを、ジャストインタイムで納入することが、私たちの役割なんです。」

高・低圧用各種ゴムホース



理な配管がされていることも少なくないんです。ここに通せなくてはならないけれど、破損につながりやすい、油漏れしやすいという設計も、実はある。ですから、もっと機械の配管などもメーカーと連携して勉強をして、設計段階からアドバイスしていけるようになったらと思います。」

祖父に当たる前社長の代から、高圧ゴムホースの加工・組立に携わって三十年以上。「常に純正品の品質維持とできる限り短い納期の対応を心がけています」という青木専務の言葉には、常に相手の要望を受け止め、臨機応変に対応してきたプロフェッショナルの自負と誠実さが感じられました。「これからやること、出来る事は全てプラスになる」という考えが丸屋製作所さんから見つけることができました。